

＜家庭との連携＞

- ・子どもの様子を具体的に伝え成長を喜び合うとともに、保護者自身が子どもの思いを受け止めたり、共感したりできるような機会をつくり、園所での活動や経験を家庭でも継続できるように支援する。
- ・体を動かして遊ぶこと、自然との関わり等の重要性や、発達に応じたねらい、育ちの姿等、情報を発信する。
- ・保護者や家庭の状況を踏まえ、子どもと保護者の安定した関係に配慮して、家庭の養育力が向上するように適切に支援する。

Ⅲ期（９・１０月）	Ⅳ期（１１・１２月）	Ⅴ期（１・２・３月）
○いろいろなことに興味や関心をもち、経験を広げる ○戸外で体を存分に動かして遊ぶ	○遊びの中でイメージを広げ、思ったこと、感じたことをいろいろな方法で表現する	○自分の力を発揮し、気の合う友達と気持ちを合わせて遊ぶ楽しさを味わう ○進級することへの期待をもつ
○いろいろな人、物、事等の環境に関わって遊びを広げる ○人の話に興味をもって聞く ○体験からイメージを広げ、より楽しく自分たちで遊びを変化させていく	○言語的コミュニケーションが活発になる ○季節の変化や行事に興味をもち、遊びに生かしていく ○いろいろな物の美しさや心地よい音を表現しようとする	○言葉の意味や面白さに気付き、言葉のやり取りを楽しむ ○イメージを広げ、表現することを楽しむ
○指導者や友達との関わりを深め、一緒に遊ぶ楽しさを味わう ○指導者や友達とルールのある遊びを考えて一緒に楽しむ	○気の合う友達と気持ちを合わせて遊ぶ楽しさを味わう	○いろいろな友達との関わりが広がる ○進級することへの期待をもつ
○友達と一緒に体を動かす経験を広げる ○ルールや合図を守って活動する	○新しい運動遊具に興味をもち、運動遊びを楽しむ ○体を動かす遊びで、ルールを考えたり守ったりする	○寒いときでも存分に体を動かして遊ぶ ○継続して運動遊びに取り組む
・相手の話に関心をもって聞くことや言葉で伝え合うことの大切さを知らせる ・絵本や物語の世界を通してイメージを広げて遊ぶことで言葉の感覚を養う ・劇遊び等で言葉のやり取り、見立て、役になりきる楽しさを味わう機会をつくる		
・遊びの中に、数量の多少に関心をもつ経験を取り入れ興味をもてるようにする ・広がる、集まる、並ぶ、順番等に気付き、分かるように経験できる機会を増やす ・簡単な数の範囲で数えたり対応させたりする遊びを取り入れる ・四季の変化に関心をもてるように身近な自然に親しむ機会をつくる		
・遊びに必要な物をつくれるように、身近な素材や自然物を用意する ・表現する楽しさを味わえるように、歌う、動く、楽器を鳴らすなどができる活動を工夫する ・絵本や物語のイメージを言葉や動き、製作等で表現する楽しさが味わえるようにする		
・気の合う友達やクラスの友達と、一緒に活動する楽しさが味わえるように集団で楽しめる遊びを取り入れる ・５歳児への憧れの気持ちが高まるように一緒に遊んだり教えてもらったりする活動を積極的に取り入れる ・友達のよいところに気付き、認め合う喜びが味わえるように関わり方を工夫する ・係や当番活動を楽しみながら行えるように工夫する		
・ルールのある遊びの楽しさや面白さに気付くように指導者も遊びに加わり、楽しさを共有する ・公共の場でのマナーやきまりを守って行動できるように知らせたり、気付かせたりする		
・動植物の生長や生命の大切さに気付けるように指導者も一緒に世話をする ・自然の美しさや不思議さに気付かせ、遊びを通して親しみを深め、大切に思う気持ちを育てる		
・いろいろな運動遊びやルールのある遊び、競技等を取り入れる ・自分なりの目標をもって運動遊びに取り組めるよう励ます ・体が温まる運動を継続して取り入れる		
・気温や体調によって衣服を調節する習慣が身に付くように、一人ひとりに応じて知らせる ・「早寝、早起き、朝ごはん」の大切さを知らせる ・手洗い、うがいを丁寧にすることの大切さを知らせる		
・運動用具を大切に扱い、安全に使えるように知らせる ・かぜ様疾患等の予防に向け、手洗い、うがいを繰り返し指導する ・園所外に出るときの安全や、マナーについての約束を知らせる		
・食べ物の種類や働きを知らせる ・朝食の大切さや友達と一緒に食事をする喜びが味わえるように、視覚教材等を取り入れながら知らせる ・バランスよく好き嫌いなく食べることの大切さを知らせる ・食材や調理等に興味をもてるようにする ・様々な人の支えを通して、食べ物が自分の健康な体をつくっていることに気付くようにする		

< 発達の様相 >

- 経験したことや感じたこと、考えたことを相手に分かるように話そうとしたり、指導者や友達の思いに関心をもって聞いたりする。
- 遊びを通して考えたり、試したり、工夫したりしたことを自分なりの方法で表現することを楽しむようになる。
- 身近な環境に自分から関わり、「やってみよう」「もっとしたい」という意欲が高まる。

		I 期（4・5月）	II 期（6・7・8月）
期のねらい		○いろいろな人、物、事等の環境に関心をもって遊ぶ	
教育的意図をもった働きかけ	言語 (聞く・話す・コミュニケーション・文字等)	・興味や関心をもって話が聞けるように、様々な場面で指導者や周囲の人の話を聞く機会をつくり、共感したり、分かりやすく伝えたりする ・生活や遊びの中で必要な言葉や意味、使い方を繰り返し伝える ・絵本や物語の内容に興味をもてるよう題材を工夫し、読み聞かせる機会を増やす	
	思考 (数量・図形・空間認識・自然科学等)	・言葉の面白さや美しさ、繰り返しの楽しさに気付くように絵本等の活用の仕方を工夫する ・疑問や困ったことを自分なりの言葉で伝えるように促す ・指導者や友達に親しみをもって挨拶を交わす心地よさが感じられるように、状況に応じて手本を見せたり、言葉をかけたりする ・見たこと、感じたこと等を友達と言葉で伝え合うことの楽しさや、喜びを感じられるように指導者が仲立ちをする 事例 26 ・物の名前、絵本や歌詞等の言葉に関心をもてるように環境を工夫する ・生活や遊びの中で、いろいろな表示や文字にも興味や関心をもつように環境を工夫する	
	創造 (造形・音楽・身体表現等)	・生活の様々な場面で、並べたり比べたりするような活動を積極的に取り入れる ・形、色の違いや種類に気付く環境を構成する ・物の特性に興味をもてるように、活動や環境を工夫する ・自分の前後、上下、隣が分かるように、生活の中で気付いていけるようにする ・身近な小動物や自然に親しんだり興味をもったりできるように遊びに取り入れる 事例 26 事例 27 ・季節や気象の変化に対する、気付きや発見を受け止め、一緒に見たり調べたりする ・素材の感触や形、色からイメージを引き出し、興味や関心をもってつくったり、使ったりできるような活動を取り入れる ・繰り返し遊ぶ中で、のりやはさみの正しい使い方が身に付くように知らせる ・身近な自然や素材等の感触や物の変化の不思議さ、美しさ等に気付かせる ・音やリズムを感じて、指導者や友達と一緒に歌ったり、楽器を鳴らしたり、体を動かしたりなどが楽しめるようにする ・身近な小動物との出会い、ふれあい等の経験を、表現遊びに広げていく	

＜家庭との連携＞

- ・子どもが興味や関心を示したことに共感したり、子どもの話に耳を傾けて思いを受け止めたり、一緒に考えたりする大切さを機会を捉えて伝える。
- ・身近な環境との関わりを通して、子どもが気付いたり経験したりしたことをいろいろな方法で具体的に伝え、子どもの育ちを共感できるようにする。

Ⅲ期（9・10月）	Ⅳ期（11・12月）	Ⅴ期（1・2・3月）
○いろいろな人、物、事等の環境に関わって遊びを広げる ○体験からイメージを広げ、より楽しく遊べるように指導者や友達と考えを出し合う ○言葉で気持ちを表現し、伝え合う楽しさを味わう		
・集団の中で人の話に耳を傾け、進んで聞こうとする気持ちがもてるようにする ・話の内容を理解し、意欲的に活動ができるように、状況に応じて伝え方を工夫する ・生活や遊びの中で必要な言葉を場面に応じて使えるようにしていく ・自分が経験したできごとを話す機会をつくり、個々の表現を受け止める ・相手に親しみをもって挨拶をする姿を受け止める ・相手の話に関心をもって聞くことや言葉で伝え合うことの大切さや伝わる喜びを感じられるように言葉のかけ方を工夫する ・言葉の意味や面白さに気付けるように一緒に会話を楽しむ雰囲気を心がける ・絵本や物語の展開に興味がもてるように見せ方や話し方を工夫する ・絵本や物語の世界を楽しみイメージを広げて遊べるように活動内容を工夫する ・見立ての面白さ、役になりきってやり取りする楽しさを味わえるように指導者も一緒に活動する ・文字や数字、印に関心をもたせ、意味があることに気付くようにする		
・遊びや生活の中で、数を数えたり物に対応させたりする経験ができるようにする 事例 30 ・形、色、大きさ、重さ、長さ等の違いに気付く、分類したり、比べたりして遊ぶ経験を積み重ねる ・いろいろな物の感触、音、形、色、大きさ等の違いに気付けるように自然物や素材を集めたり、使ったりして遊ぶ機会を増やす ・生活や遊びの中に様々な形があることに気付くよう、分類したり組み合わせたりして遊ぶ経験を積み重ねる ・目的に応じて、自分たちで音楽機材等の操作ができるように使い方を知らせる ・広がる、集まる、並ぶ、順番等が分かるように、経験を通して知らせる ・昨日、今日、明日について、状況に応じた使い方を知らせる ・気温や戸外の自然の変化から季節の移り変わりに気付けるように、身近な自然に触れる経験を増やす		
・遊びに必要な物をつくって遊べるように、身近な素材や自然物等の環境を整える ・のりやはさみが自在に使えるように、遊びの中で繰り返し扱い方を知らせる ・自分のイメージに合った素材を選び、見立てたり組み合わせたりしながらつくる楽しさを味わわせる ・友達と一緒に工夫してかいたり、つくったりできるように、環境を整えたり、誘いかけたりし、できた物を使って遊ぶ楽しさに共感する ・つくった物を飾ったり、プレゼントしたりする機会をもち、気持ちを込めてつくることを楽しめるようにする ・美しい声や音等、音楽に触れる経験を積み重ねる ・いろいろな音に触れることを通して、音程や音質の違いを感じられるようにする ・友達と一緒に音楽やリズムに合わせて、歌ったり、踊ったりする楽しさが味わえるようにする ・絵本や物語、歌等からイメージしていることを引き出し、表現して楽しむことにつなげていく ・絵本や物語から友達とイメージを共有して言葉や動き、製作等で表現する楽しさを味わえるようにする		

< 発達の様子 >

- 友達や環境に関わり、興味のあることを見つけて取り組もうとする。
- 友達と気持ちを合わせて遊ぶ中で、自分の思ったことや考えたことを表現しながら、関わりを楽しむ。
- 約束やきまりの大切さに気付き、守ろうとする。友達との関わりの中で、不快なことに直面しても少しずつ自分の気持ちを抑えたり、違う思いや考えを認めたりするといった社会生活に必要な基本的な力を身に付けていく。
- 身近な動植物に対する興味や関心をもち、関わる中で生長や変化、生き物には命があることや、生命の大切さ等に気付いていく。

		I 期 (4・5月)	II 期 (6・7・8月)
期のねらい		○新しい環境に慣れ、指導者や友達に親しみをもつ	○友達や周囲の環境に興味をもち、関わりを広げる ○生活に必要な約束やきまりを守り、指導者や友達と楽しく過ごす
教育的意図をもった働きかけ	人と関わる力 (自立心・思いやりの心 協同性・道徳心等)	・新しい環境の中で安心感がもてるように、指導者や友達と一緒に楽しく過ごせる機会を増やす ・自分の持ち物を片付けることができるように、片付けやすい環境を工夫し、具体的に視覚教材等で手順を示したりする ・友達の存在や思いに気付き、友達と関わる喜びを味わうことができるように活動を工夫する 事例 28 ・生活のいろいろな場面で友達の思いや考えに気付くように共感したり、言葉を添えたりする ・いろいろな友達と触れ合って遊ぶ楽しさを味わえるように活動を工夫する ・好きな遊びを楽しめるように、指導者も遊びに加わり、一人ひとりの子どもを十分に受け止める ・挨拶や返事をする気持ちよさを感じ、進んでできるように言葉をかけて知らせる ・国旗、国歌に関心がもてるようにする	
	規範意識 (社会生活の ルールを守る心等)	・友達と一緒に遊具で遊ぶ楽しさを経験する中で、物を大切にすることや、身近な遊具や用具等の安全な使い方や片付け方を知らせる ・自らきまりを守ろうとする意欲が育まれるように、集団生活の中で必要なきまりに気付くようにする ・園所外に出るときの、公共のマナーや交通ルールを話し合い、確認する	
	生命の尊重 (命の大切さを 感じる心等)	・春から夏の身近な自然に親しんだり、野菜や草花の世話を経験したりする中で、その生長や変化に気付くように環境を整える ・身近な動植物に興味をもち、それらとの関わりを通して、命の大切さに気付くように、見たり、触れたり、世話をしたりするなど、活動や環境を工夫する 事例 27 ・誕生日を祝ってもらったり、友達の誕生日を祝ったりする中で、一人ひとりが大切な存在であることを伝えていく	

<家庭との連携>

- ・生活や遊びの中で、一人ひとりが大事な存在であることが感じられるように受け止め、認めていくことの大切さを伝える。
- ・自分の気持ちを通そうとする思いと、ときには自分の思った通りにいかないという不安や葛藤を経験する時期であるため、大人がこのような気持ちに共感し、思いに寄り添い励ますことで他者の気持ちを理解していくことを伝える。

Ⅲ期（9・10月）	Ⅳ期（11・12月）	Ⅴ期（1・2・3月）
○自分の思いを出しながら、友達との関わりを深め、一緒に遊ぶ楽しさを味わう ○友達と思いを伝え合いながら、気持ちを合わせて遊ぶ楽しさを味わう ○指導者や友達と、ルールのある遊びを考えて一緒に遊ぶ ○進級することへの期待をもち、意欲的に遊びや生活をする		
・ 5 歳児への憧れの気持ちがもてるように一緒に遊んだり、教えてもらった りする機会を取り入れる ・ 優しさや思いやりが感じられるように、未就園児や高齢者をはじめ地域の人々と触れ合う機会をつくる ・ 友達と一緒に活動する楽しさや、心地よさが十分に味わえるように友達との関係づくりを支える 事例 30 ・ 友達と積極的に関わりながら喜びや楽しさを共感し、互いに認め合えるようにクラスで活動する機会を増やす ・ 共通のイメージをもったり、自分の役割を進んで行ったりできるように励まし、友達と楽しさや面白さを共有できるようにする ・ 見たこと、感じたこと等を友達と共有し、楽しさを共有できるように見守ったり、仲立ちしたりする ・ 自分の気持ちを十分に出したり、相手の気持ちに気付いたりできるように仲立ちをする 事例 33 ・ 一人ひとりの思いを受け止めることで、友達のよいところにも気付けるように言葉をかける ・ 自分とは異なる文化をもった人々の存在を知り、関心をもてるような機会をつくる ・ 係や当番活動等を通して、人の役に立つことを嬉しく感じられるように、主体的に取り組む姿を認めていく		
・ ルールを守って活動する大切さに気付き、遊びの楽しさを味わえるように、興味や関心に応じた遊びを取り入れ、適時言葉をかけたり見守ったりする ・ 友達との関わりを通して主張したり、受け入れたりする気持ちが育つように、指導者が仲立ちとなりながら、友達とルールをつくり、守って遊ぶ経験を積み重ねる 事例 33 ・ 遊びの中で譲ったり交代したりするなどの関わりを通して、共同の物を大切に使う気持ちがもてるように一人ひとりの思いに寄り添い、言葉をかける ・ 安全に遊ぶ必要性を知らせ、自ら気を付けて活動しようとする姿を認めていく ・ 公共の場でのマナーやきまりを知り、守って行動する気持ちがもてるように知らせ方を工夫する		
・ 秋から冬の自然の変化や美しさ、不思議さを感じ取れるように自然に触れる機会をつくる ・ 季節の自然物に親しめるように、木の葉や木の実等を集めたり、遊びに取り入れたりしていく ・ 冬から春への季節の移り変わりに気付くように、身近な草木の生長や変化を感じ取れるような機会をつくる		

< 発達の姿 >

- 「体のバランスをとる」「体を移動する」「用具等を操作する」などの基本的な運動能力が向上し、思い通りに体を動かせるようになってくる。
- 自分の好きな遊びを楽しむ中で、次第に友達と一緒に運動することの楽しさを体験し、関わり方や遊び方を工夫して遊ぶようになる。
- 自分のことは自分でできるようになり、健康な生活に必要な習慣や生活リズムが身に付いてくる。
- 体や気持ちをコントロールできるようになり、安全に気を付けて生活できるようになってくる。
- 友達と一緒に楽しく食事をする、育てた野菜を食べるなど食物に関心をもつようになる。

		I 期 (4・5月)	II 期 (6・7・8月)
期のねらい		○自分の好きな遊びを見つけ、指導者や友達と一緒に体を動かして遊ぶ ○指導者や友達と一緒に様々な動きを楽しむ ○健康な生活に必要な習慣や生活リズムを身に付ける ○指導者や友達と一緒に食事を楽しむ	○水に親しみ、存分に水遊びを楽しむ ○いろいろな約束やきまりを守り、安全に過ごす
教育的意図をもった働きかけ	運動	・体を動かす遊びを存分に楽しめるように、戸外の環境を整えたり、集会等を行ったりする ・いろいろな友達と、体操やリズム遊び等で体を動かし、交流して活動できるように計画する ・様々な動きが楽しめるように、リズムに合わせて歩く、止まる、スキップをするなどの動きを活動に取り入れる	・登る、ぶら下がる、跳ぶなど体のバランスや体を移動する動きを積極的に取り入れる ・砂場や土山で掘る、運ぶ、積み上げる、登る、水を流すなど、用具を操作しながらダイナミックに活動できるように環境を整える ・存分に水の感触を味わいながら、水遊びを楽しめるように環境を整える 事例 29 ・室内でも、安全に留意しながら運動遊具を活用する
	基本的な生活習慣	・健康な生活リズムが身に付くように、視覚教材等の活用方法を工夫する ・手洗い、うがいの習慣が身に付くように言葉をかけ、指導者も一緒に行う ・園所生活のリズムに慣れ、安心して活動できるように繰り返し励ます	・歯の大切さを知り、自分で磨けるように促す ・健康な生活に必要な汗の始末、着替え、手洗い、うがい等、体を清潔にすることを知らせる ・「早寝、早起き、朝ごはん」が実践できるように視覚教材を使って知らせる
	健康・安全	・けがや気分が悪くなったときは、指導者に知らせることを約束する ・遊具の安全な使い方を知らせる ・安全に活動できるように、園所生活に必要な約束やきまりを知らせる ・いろいろな避難訓練を実施し、命を守る大切さを知らせる ・自分の体の成長に関心をもてるように発育測定のを捉えて知らせる	・夏季を元気に過ごせるよう、こまめに水分補給を行う ・安全に水遊びが楽しめるように、約束やきまりを知らせる 事例 29 ・交通ルールを守る必要性に気付くように、交通安全についての話をしたり、繰り返し確認したり、実際に体験できる機会をつくる ・地域や戸外に出かけ、並んで歩いたり、公共の約束やきまりを守ったりして、安全に歩けるようにする
	食育	・食事のマナーを知らせるとともに、食べることの喜びや満足感が味わえるように、友達や指導者と一緒に楽しく食事をする雰囲気をつくる ・栽培を通して、植物の生長や収穫する喜びを感じることができるよう機会をつくり、食材に興味や関心をもてるようにする ・正しい箸の持ち方について、見たり、使ったりできる教材を活用して知らせる	

<家庭との連携>

- ・体を動かして遊ぶことの重要性や発達に応じた動き、調整力等について、情報を発信する。
- ・保護者に保育参加の機会をつくり、保護者自身にも体を動かす楽しさを体感してもらう。
- ・基本的な生活習慣は、家庭と園所の両方で指導することで確実に身に付き、生涯にわたる健康な生活の基礎になることを伝え、協力を図る。
- ・健康な体づくりのための運動や食事、睡眠のリズムを知らせ、家庭でも実践してもらえるように協力を依頼する。
- ・栽培や食事を通して食の大切さを実感できるように、食育に関する情報を発信する。

Ⅲ期（9・10月）	Ⅳ期（11・12月）	Ⅴ期（1・2・3月）
○友達と一緒に活動する楽しさを味わいながら体を動かす経験を広げる	○新しい運動遊具等に興味をもち、運動遊びを楽しむ	○寒いときでも、存分に体を動かして遊ぶ
○ルールやきまりを守って活動する	○ルールを考えたり、守ったりしながら体を動かす遊びを楽しむ	○継続して運動遊びに取り組む
○収穫の喜びを味わい、食べることへの意欲を高める		
・いろいろな運動遊びを楽しめるように、遊具や用具を使って遊ぶ活動を積極的に取り入れる ・全身を活発に動かすことを楽しめるように、指導者や友達とイメージを共有した表現活動を取り入れる ・体を動かす楽しさを味わえるように、ルールのある遊びや競技を取り入れる ・意欲をもって運動遊びに取り組もうとする姿を認める	・自分の思いを出しながら指導者や友達とルールのある運動遊びを楽しめるようにする ・運動遊びへの意欲が高まるように5歳児の遊びを見たり、真似て一緒に遊んだり、挑戦したりする楽しさが味わえるようにする ・自分なりの目標をもって取り組む様子を認め励ます	・体が温まる運動遊びを継続して取り入れる ・ボールを蹴る、投げるなどの活動を取り入れ、ボール遊びの楽しさを味わえるようにする ・ルールを守って友達と一緒に楽しむ活動に、積極的に参加していけるようにすすめる
・「早寝、早起き、朝ごはん」の大切さについて知らせ、守ろうとする気持ちをもたせる ・気温や体調に合わせて、衣服の調節をすることを知らせる	・睡眠、食事、排泄、運動の大切さや関係性について知らせる ・衣服の乱れに気付き、自分で整えることが意識できるように、言葉のかけ方を工夫する	
・よい姿勢を保持する大切さに気付かせるとともに、いろいろな動きができるような活動を取り入れる ・体を十分に動かす中で、休息をとったり水分を補給したりすることの大切さを知らせる ・運動用具を大切に扱い、安全に使えるように知らせる ・園所外に出るときは安全や交通ルール、マナーについて知らせ、安全に気を付けて行動できるようにする	・かぜ様疾患等、病気の予防のために、手洗い、うがいの大切さを知らせ、丁寧に行うように促す 事例 31 ・冬の遊びを楽しめるように、環境を工夫する ・健康で楽しく園所生活が送れるように、積極的に体を動かせる活動や環境を工夫する	
・食材や調理に興味をもてるように、食べ物の名前や種類、働きを知らせる ・視覚教材等を使って朝食の大切さを知らせる ・健康で丈夫な体づくりにつながるように、バランスよく、好き嫌いをせずに食べる大切さを知らせる ・収穫を楽しみながら、食材の名前を知らせ、食材や調理に興味をもてるようにする	・様々な人の支えを通して、食べ物が自分の健康な体をつくっていることを知らせる	

(4) 5歳児

5歳児のカリキュラム

<発達<の姿>

- 挑戦意欲が増し、自分なりに目標をもち、あきらめずに、根気よく取り組んだり、目標を設定したり、意欲的に活動に取り組んだりなど、心身の充実感、達成感を味わうようになる。
- 共通の目的をもって友達と協力したり、工夫したりしながら自己発揮し、遊びを發展させる中で自立心が高まってくる。
- 友達とイメージを共有し、考えたことを伝え合いながら、遊びや生活を自分たちで進めるようになる。

		I 期 (4・5月)	II 期 (6・7・8月)
期のねらい		○進級したことを喜び、指導者や友達と遊びや生活を楽しむ ○新しい環境に慣れ、安定した気持ちで過ごす	○様々な人、物、事等の環境に関わり、自分なりの力を発揮して、積極的に遊ぶ
子どもの育ち	知	○指導者や友達の話聞き、経験したことや思いを相手に分かるように伝える ○自ら触れ、試したり、工夫したりして、砂、土、水等の特性に関心をもって関わる ○様々な経験を通して、考えたことや感じたことを自分なりに、また友達と一緒に表現する	○身近な自然環境や事象に関心を持ち、探したり、調べたりして遊ぶ
	徳	○新入児や年下の友達の世話を進んでする ○集団生活のきまりの大切さを分かり、自ら進んで守る ○身近な動植物の世話をし、親しみや愛情をもつ ○生活を通して、いろいろな国や文化に親しみをもつ	○身近にいる様々な人との関わりを通して親しみを持ち、相手の気持ちに気付く
	体	○いろいろな運動遊びに関心を持ち、進んで体を動かす ○規則正しい生活や健康な生活に関心を持ち、大切に気付く	○存分に水に関わり、全身で水の感触を味わって遊ぶ
教育的意図をもった働きかけ	知	言語	・思いや考えを伝え合う機会をつくり、自分の考えを話したり、友達の話を聞いたりする楽しさや大切さに気付くようにする ・いろいろな絵本や物語に親しめるように環境を整え、内容や言葉、文字等への関心が高まるようにする
		思考	・様々な場面で色、形、数量、標識や文字等に関心を持ち、試しながら遊ぶ機会をつくる ・遊びや生活の中で、日時・曜日の感覚を意識できるようにし、見通しをもって生活できる喜びを味わえるようにする ・身近な物の特性に気付き、遊びに生かしたり、取り入れたり、調べたりできるようにする ・動植物の生長の様子や変化等、自然事象への関心が高まるようにする
		創造	・工夫する、試すなどを楽しみながら、意欲的にいかしたり、つくったりできるようにする ・友達と音やリズムを合わせる心地よさに気付き、一緒に演奏する楽しさが味わえるように、音楽に関わる機会を増やしたり、工夫し合っている姿を認めたりする ・イメージを広げ、なりきって遊べるように、イメージに合う環境を整えたり、それぞれの表現を認めたりする
	徳	人と関わる力	・いろいろな友達に関わり、5歳児としての自信や自覚をもてるようにする ・自分の考えを相手に伝えたり、相手の思いを受け入れたりする大切さに気付くようにする ・国旗、国歌に親しめるようにする
		規範意識	・集団生活のきまりを守る大切さを再確認できるように、機会を捉えて知らせる ・自分たちで遊びを進める楽しさを味わえるように、遊びのルールを友達と確認したり、考えたりできるようにする ・公共のマナーや交通安全が守れるように機会を捉えて、気付かせる
		生命の尊重	・春から夏の自然に関心を持ち、自然の変化に気付いたり、栽培物の生長や収穫の喜びを味わったりできるようにする ・身近な小動物との関わりを通して、生命の大切さに気付くようにする ・誕生の喜びや、祝う気持ちが感じられるようにする
	体	運動	・いろいろな運動遊びへの関心が高まるよう、ルールのある活動を取り入れたり、遊具等の環境を工夫したりする ・全身で水の感触を味わえるようにし、水の抵抗や浮力を体感できるようにする
		基本的な生活習慣	・手洗い、うがい、汗の始末、衣服の調節等について再確認し、進んで取り組むように知らせる ・規則正しい生活や健康な生活の大切さを知らせ、意識して過ごせるようにする
		健康・安全	・発育測定や健康診断等を通して、自分の体や成長に関心をもてるようにする ・遊具、用具の安全な使い方を再確認し、身に付くようにする ・いろいろな水遊びにおける約束を再確認し、安全に遊べるようにする ・避難訓練を行い、災害時の適切な行動の仕方を再確認させ、緊急時に適切に行動できるようにする
		食育	・食の大切さを知らせ、マナーを守って友達と一緒に食べる楽しさを味わえるようにする ・年間の行事を通して伝統的な日本の食文化を知らせる ・食べる意欲が高まるように、旬の食べ物や身近な食材の栄養などについて知らせるようにする ・収穫を通して様々な恵みに感謝の気持ちがもてるようにする

<家庭との連携>

- ・保護者とともに、子どもの成長を喜び、家庭でも就学に期待をもって生活できるように励ます。
- ・子育て等に関する相談、助言に当たっては、保護者の気持ちを受け止め、相互の信頼関係を基本に、保護者一人ひとりの思いを尊重する。
- ・生活の中で子どもと一緒に考えたり調べたり、体を動かしたりするような関わり方が大切であることを知らせる。
- ・基本的な生活習慣の確立や家庭での楽しい食事が小学校以降の生活や学力向上に影響が大きいことを知らせる。

Ⅲ期（９・１０月）	Ⅳ期（１１・１２月）	Ⅴ期（１・２・３月）
○考えや気持ちを出し合って活動する楽しさを共有する中で、友達との一体感を味わう	○進んで環境に働きかけ、友達と協力したり工夫したりして、活動する充実感を味わう	○友達と共通の目的をもち、活動する中で、達成感、成就感を味わう ○就学への期待を高めながら残りの園所生活を楽しむ
○自分の思いをいろいろな言葉に置き換えたり、文字や数字に関心をもったりして遊ぶ ○絵本や物語に親しみ、指導者や友達と心を通わせるとともに言葉に対する感覚を養う ○友達のいろいろな考えを知り、共感したり受け入れたりしながら、考えを出し合って遊ぶ	○イメージを広げ、心を込めて歌ったり、工夫してつくったりしようとする	○いろいろな環境に関わって考えたり学んだりしたことに自信をもつ
○友達と考えや気持ちを出し合って活動し、一体感を味わって楽しさを共有する ○いろいろな環境に働きかけ、それらの特徴を生かして遊びや生活を工夫する	○必要感をもちながら、ルールをつくったり守ったりして集団で遊ぶ	○友達と共通の目的をもち、考えを出し合ったり話し合ったりして試行錯誤しながら根気よく活動を進め、充実感や達成感を味わい、就学への期待をもつ
○集団的な活動や運動遊びを通してルールを守って、友達と力を合わせる楽しさを味わう	○自らの目標をもったり、友達と力を合わせたりにして、根気強く取り組む	○挑戦したり目標をもったりして、戸外で存分に体を動かす ○共通の目標に向かって、集団での活動を楽しむ、充実感や達成感を味わう
・相手の気持ちを考え、聞いたり話したりするようにしながら、伝え合いを通して、言語的コミュニケーションの大切さに気付くようにする ・生活や活動の中で、文字や数字等に関心がもてるような環境を工夫する		・絵本や物語を楽しむ中で、友達とイメージを共有し、豊かな言葉や表現を身に付けられるようにする
・探求心、好奇心が高まるように、物の性質や仕組みや自然の変化、現象等への関心ももてる活動を積極的に取り入れる ・広さ、高さ、位置関係、空間等の感覚が養えるように、機会を捉えて、意識付ける内容を遊びに取り入れる		・数量の増減に関心が高まるようにする ・日常生活での必要感に基づく体験から、数量、図形、空間認識等の感覚を養う
・友達と共通のイメージをもち、遊びに必要な物をかいたりつくったりできるよう、適切に助言する ・様々な方法で表現することを楽しめるよう、環境を工夫する ・心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにして表現する楽しさを味わえるようにする		・友達と一緒に表現する充実感を味わえるようにし、自信や意欲をもたせて就学への期待につなげる
・お互いによさを認め合い、考えを出し合ったり、役割を分担したりする活動を積極的に取り入れ、試行錯誤したり友達に支えられたりしながら、やり遂げた達成感が味わえるようにする ・友達と活動する中で、葛藤やつまずきを体験しながら、自分の気持ちを調整し、折り合いが付けられるようにする ・係や当番活動に進んで取り組み、最後まで責任をもってすることの必要感に気付くようにする		・就学への期待を膨らませ、集団生活に必要なルールを再確認し、その必要性が分かって守ろうとする気持ちをもたせる
・必要なルールを友達と考え合いながら、みんなで決めたことを守るように促す ・よいこと、悪いことに気付き、考えて行動できるように繰り返し知らせる		・春の訪れや生命の息吹を感じられるよう、身近な自然や事象に親しめるようにする
・秋から冬の自然に関心を持ち、自然の変化に気付いたり、収穫への期待をもったりできるようにする ・動植物の生長に触れたり、責任をもって世話をしたりする中で、命を大切にする気持ちを育む ・一人ひとりが大切な存在であることを伝え、命の尊さに気付くようにする		
・ルールのある遊びを友達と工夫し、挑戦する楽しさを味わえるようにする	・友達いろいろな遊び方を考え、体を動かす心地よさを存分に味わえるようにする	・自分の力で行動する充実感を感じられるようにする ・体の動きを自分で調整できるようにする
・「早寝、早起き、朝ごはん」の大切さに気付き、自分で生活リズムを整えられるようにする		・自分の体の成長を知り、健康な体づくりに関心を持てるようにする
・自分たちで遊具、用具の準備や片付けをすることで、その特徴や安全な使い方に気付くようにする	・交通ルールや安全な生活について再確認させ、自分で気を付けて行動できるようにする ・かぜ様疾患や感染症等の病気の予防に努めていけるように指導する	・身の回りの安全に関心をもたせ、気を付けて行動できるようにする ・自分の命を守るために必要な行動を再度知らせる
・収穫を通して様々な恵みに感謝の気持ちを持ち、味わって食べるようにする		・いろいろな食べ物の役割について関心を深め、学校給食に期待がもてるようにする

<発達の様子>

- 相手と心を通わせる中で、語彙力や表現力が育ち、友達の思いと自分の思いとの相違に気付き、調整する力が育ってくる。
- これまでの生活経験を生かして、目的をもって取り組んだり、遊びや生活を自分たちでよりよい方向に進めたりしようとする。
- 心を動かす出来事に触れ、イメージを広げ、感性が豊かになる。また、友達とイメージを共有し、共感する中で、自分の思いや考えを様々な方法で表現したり、伝え合ったりするようになる。

		I 期 (4・5月)	II 期 (6・7・8月)
期のねらい		○いろいろな人、物、事等の環境に進んで関わり、自分なりに変化させたり想像したりして遊ぶ ○新しい環境に慣れ、自分なりに生活や遊びを進めようとする	
教育的意図をもった働きかけ	言語 (聞く・話す・コミュニケーション・文字等)	・指導者や友達との会話を楽しむ機会を多くもち、相手に分かるように話したり、相手の話を聞いたりすることの大切さを知らせる 事例 34 ・相手の思いを受け入れたり、共感したりできるように仲立ちをする ・挨拶の意味や大切さ、気持ちよさを繰り返し伝え、自分から進んで挨拶するよう習慣付ける ・体験や思い、考えを自分なりの言葉で伝える場をつくり、言語的コミュニケーションの楽しさを感じられるようにする ・たくさんの絵本の中から見たい本を選ぶように環境を整え、内容や言葉、文字への関心を高める ・絵本や物語、体験等を通して、豊かなイメージをもち、言葉に対する感覚を身に付けるとともに、その意味や使い方を理解できるように伝える	
	思考 (数量・図形・空間認識・自然科学等)	・形、色、大きさ、重さ、長さ、数量等に触れ親しむ体験を重ねることで数量や図形等の興味や関心、感覚を養うようにする (数える、1対1対応、対比等) 事例 36 ・遊びや生活の中で、日時・曜日等の感覚を意識できるようにし、先の見通しをもって生活する喜びが味わえるようにする ・身の回りの物の特性に気付くことができるように繰り返し遊びに生かしたり、自分なりに判断し取り入れたりするようにすすめる ・周囲の環境に好奇心をもって関わりながら、発見したり、自分なりに考えたりする機会をつくり、思考の芽生えを育むようにする ・身近な自然の変化や栽培物の生長、小動物の変化や様子に興味をもち、よく見たり、自分なりに考えたりできるように環境を整える 事例 36 ・動植物の世話を通して、命があることに気付くようにする ・天候、星空等自然事象に興味をもつ機会をつくり、関心を高める 事例 35	
	創造 (造形・音楽・身体表現等)	・友達と一緒に試したり、工夫したり、遊びに必要な物をつくったりして、共通の目的が実現できるように環境を整える ・友達と一緒に音楽やリズムに合わせて歌ったり、動いたり、合奏したりする楽しさが味わえるようにする ・友達と音を揃える心地よさに気付き、友達と気持ちを合わせ、美しい音色で表現しようとする気持ちがもてるように聴く機会を大切にする 事例 37 ・感じたことや思ったこと、経験したこと、イメージしたことを自分なりに様々な方法で表現し、その楽しさが感じられるように受け止める ・個々の発想を大事に受け止め、満足感や表現したい意欲につながるように見守る ・友達とイメージを共有したり、広げたりして表現できるように関わったり、環境を整えたりする	